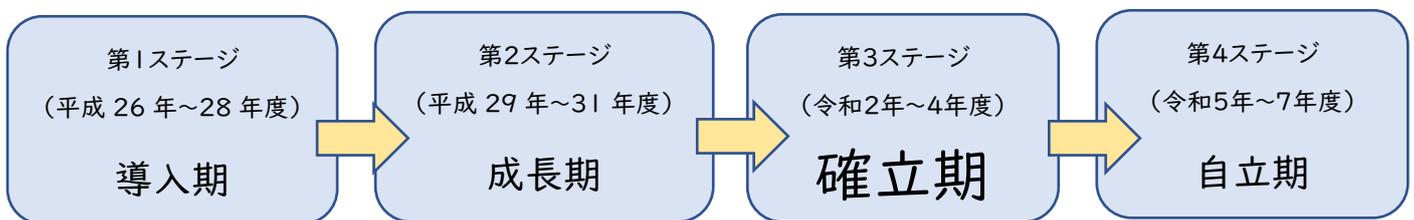


令和4年10月3日

1 小中一貫教育のねらいについて

- ①義務教育9年間を修了するのにふさわしい学力の育成
- ②豊かな人間性や社会性の育成
- ③中学校入学時の不安の解消

2 小中一貫教育のこれまでの取組と方向性について



那覇市では、平成24年度から神原中校区において、小中一貫教育モデル校区として実施し、平成26年度から3年かけて全中学校区に順次導入してきた。その後、「成長期」「確立期」と進む中で「学習指導要領の改訂」もあり「子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力」を一層確実に育成することが求められています。

「子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力」を育むためには、小学校、中学校の学校段階間の接続は必要不可欠です。またその推進にあたっては、各グループの職員間の連携、及び学校・家庭・地域社会との連携が重要です。

令和5年度から始まる第4ステージ「自立期」においては、平成26年度より取り組んできたあゆみを継続し、各グループの「目指す子供像」の実現に向けて推進していきます。

3 第3ステージ取り組みの重点について

- 地域の実態や発達の段階に応じた、めざす児童生徒像の共通理解と指導観を共有した共通実践
- 効果的で持続可能な組織及び取組内容の工夫・改善

【取組の柱】

1 全ての教科等・全ての学年で、系統立てた授業改善の充実・発展

<重点的取組> グループにおける、教科を横断した具体的な共通の学習テーマのものの授業研究(言語活動等)

2 児童生徒を主体とした生徒指導の充実・発展(教育相談・特別支援教育含む)

<重点的取組> 主体的な、児童会・生徒会の活動や学級活動
(課題の共有、委員会活動や学級での実践等)

*取組の柱(言語能力の育成等)については、普段の見取りや諸調査の結果等、児童生徒の実態をしっかり和小中の先生方で相互に共有し、話し合っって小中学校の9年間で系統的に育成していく必要があります。